

9月1日は「防災の日」

備えよう 我が家の防災対策

大正12年9月1日、関東大震災が発生しました。死者・行方不明者は、合わせて約14万人。こうした災害の恐ろしさを忘れないために、9月1日を「防災の日」と決めました。

安城市でも地震や台風などによる災害がいつ起こるか分かりません。災害の恐ろしさを再確認し、いざというとき、あわてず落ちついて行動できるよう、日ごろから家族全員が集まって、わが家の防災対策・火の元の管理・幼児やお年寄りの避難方法・避難時の各自の持ち物や身支度などについて話し合いましょう。また近所同士でもよく話し合い、地域ぐるみで対処していくことが大切です。こうした話し合いが安全で住みよいまちづくりにつながります。

○家族との連絡方法

災害時に最も気がかりなのは家族の安否。あらかじめ、自宅からの一時的な避難所、一時身を寄せる知り合いの家、その後の連絡方法などを決めておくことが必要です。災害が起こった場合には、電話回線がパンク状態となり連絡が取りにくくなることが予想されます。あらかじめ、どう連絡し、どう行動するかを決めておきましょう。

○避難場所の確認を

最寄りの避難所と、次に近い避難所までの経路を、必ず一度は家族全員で下調べをしましょう。途中には、危険な箇所があるかもしれません。避難場所への経路は2つ以上考えておきましょう。

○子どもには身元確認カードを

子どもの身元がいつでも確認できるように、住所・氏名・生年月日・血液型・保護者名・電話番号・はぐれたときの落ち合い先などを記入したカードを身に付けさせておくと、いざというとき役立ちます。



台風的心得

①日ごろの備えと点検

日ごろから家や塀、看板などの補強をしたり、溝などの清掃をしたりしておく。

②台風が近づいたら

テレビ、ラジオなどの情報を注意して聞く。非常用品などの再点検も忘れずに。

③台風接近

火の元を点検し、水害の恐れがあるときは日用品などを高いところに移し、すぐ避難できる体制をとる。

④停電に備える

懐中電灯、ローソク、ラジオなどの用意を。乾電池の補充も忘れずに。

⑤避難するときは

子どもやお年寄り、病弱者は早めに避難させる。避難時はできる限り身軽な服装で帽子、ヘルメット、手袋なども忘れずに。

地震的心得

①まずはわが身の安全確保

大きな揺れは、1分程度でおさまります。机の下などに急いでぐり込み、身の安全を確保しましょう。

②非常脱出口を確保

地震の揺れにより扉がゆがみ開かなくなることがあります。窓や扉を素早く開けるようにしましょう。

③素早く火の始末

揺れの合間に火の始末をします。ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜きましょう。

④火が出たら、まず消火

天井に燃え移る前なら初期消火が可能です。近所に声をかけ、協力して消火に努めましょう。

⑤あわてて外に飛び出さない

かわらや窓ガラスが落下してくる危険性があります。周りの状況を見て行動しましょう。

⑥狭い路地や塀ぎわ、がけや川べりには近寄らない

ブロック塀が倒れたり、地盤がゆるんで崩れやすくなったりしています。避難するときは、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

⑦避難は徒歩で、持ち物は最少限に

自動車を使うと渋滞を引き起こし、消火や救急救護活動の妨げとなります。避難は徒歩で荷物は必要な物だけにしてください。

⑧みんなで応急救護

災害時は、お互いに協力をしなければなりません。軽いけがは、みんなで応急の処置をしましょう。

⑨正しい情報をつかみ、むやみに恐れない

デマやうわさに惑わされず、市役所や警察、消防署などの指示に従い冷静に行動しましょう。

⑩余震に注意

かろうじて倒れなかった家や塀でも余震で倒れることがあります。素早く避難して様子を見ましょう。

市民の皆さんへ

昨年の東海豪雨で、浸水家屋130件余をはじめ多くの被害を受けたことを教訓にし、本年は愛知県と安城市の合同総合防災訓練を実施しました。各町内会で組織していただいた自主防災会も、今では92%の組織率となり、市民の皆さんの防災に対する関心も非常に高くなっています。災害時には、隣人同士の助け合いが、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。出火時の初期消火、お年寄りや病人の避難の手助け、情報の確認方法など、日ごろから地域の皆さんで話し合い、協力関係を築くことが何よりも大切であると考えています。

最後に、防災の基本は、“自分の命は自分で守ること”といわれます。行政のできることにも限界がありますので、お互いに助けあう組織である自主防災会への加入とともに、地域で防災についての話し合いをお願いします。

安城市長 杉浦正行

浸水対策として 《内水対策総合計画》 を策定しました

一昨年の夏と昨年の秋の東海豪雨での浸水被害を踏まえ、昨年度に内水対策総合計画を策定しました。

同計画は、市街地での浸水被害を解消させるため、河川・下水道・農業用排水路などの排水にかかわるすべての事業を効果的に行うよう、ハード・ソフト両面の対策が盛り込まれています。

ハード対策として、浸水被害のあった7つの流域で河川改修・下水道整備・バイパス整備、調整池・ポンプ施設の設置を緊急度の高い箇所から実施します。また、ソフト対策として浸水マップを作成したり、水位警報装置を設置したりしています。

今後は、雨水処理貯留浸透施設への助成や農地内の雨水貯留を検討していきます。

問い合わせ▶土木課

災害時の連絡先

安城市災害対策本部（安城市役所）
基幹避難所（地区公民館）
自主防災会（町内会）